

症例

リンパ機能と治療効果がよく相関した症例を提示します。

症例 1 79 歳女性 (図 7)

子宮がん術後の右下肢続発性リンパ浮腫。がん治療を受けた翌年より右下肢浮腫を自覚しましたが、「治療法はない」と診断され 30 年以上放置。高齢になり右下肢重量のため、いよいよ歩行困難となって受診。右下腿の皮膚は象皮様に硬く変化していました (Ⅲ期)。

認知機能の低下があり強圧の圧迫療法は導入できず、中圧の弾性着衣の使用 (4 か月) により右下腿の硬い皮膚が少しずつ脱落し、正常な皮膚を認めるようになって、Ⅲ期とはいえなくなりました。リンパシンチグラフィは type Ⅲ であり、治療に反応するリンパ機能でした。



図 7 症例 1: 79 歳女性, 子宮がん術後の右下肢続発性リンパ浮腫

A: 認知機能低下のため弾性着衣上縁の食い込みを修正できない
B: 角質層の代謝が悪く象皮様にみえていたが、速やかに正常化
C: 右は type Ⅲ でケアに反応可能なリンパ機能が残存

症例 2 70 歳女性 (図 8)

11 年前に子宮頸がん手術を受けました。浮腫の自覚なく経過していましたが、左変形性膝関節症を発症した 4 年前より両下肢浮腫が出現。浮腫は疼痛がなく放置していましたが、膝関節手術予定となり、整形外科医に「手術前にリンパ浮腫を改善すること」と言われて受診。

両側下腿の色素沈着を伴い皮膚が薄くなっていることから、歩行量減少に伴う廃用性浮腫が主因と判断。軽めの圧迫療法にて速やかに両側下腿浮腫が改善。リンパ機能は両側ともにほぼ正常とされる type I で、良好な治療効果が得られました。

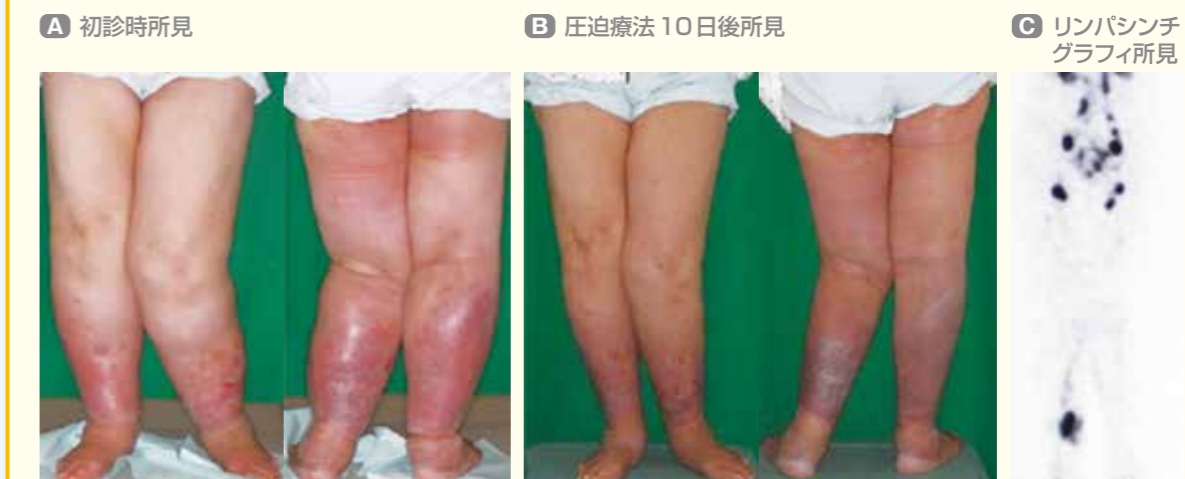


図 8 症例 2: 70 歳女性, 11 年前に子宮頸がん手術の既往がある両下肢浮腫

A: 左膝の著明な変形と両側下腿の赤褐色色素沈着を認める。皮膚は薄い
B: 両側下腿の浮腫は速やかに改善
C: 両側 type I で、軽微な治療でも奏功する

おわりに

これまでのリンパ浮腫診療・ケアは医療者の知識や経験に頼ってきました。しかし、さまざまなモダリティが登場し、実際のリンパの流れやうっ滞部位の描出による客観的な機能評価、治療効果判定が可能となりつつあります。今後は高解像度

プローベを用いた超音波検査や MRI などによりリンパ管そのものが詳細に観察されるようになって、リンパ浮腫の病態生理が解明され、治療へ反映されることが期待されています。画像評価を活用したよりよいケアを行うことが重要と考えます。

文献

- 1) Maegawa J, Mikami T, Yamamoto Y, et al.: Types of lymphoscintigraphy and indications for lymphaticovenous anastomosis. *Microsurgery*, 30: 437-442, 2010.
- 2) 加藤征治・須網博夫: 新しいリンパ学—微小循環・免疫・腫瘍とリンパ系—. 金芳堂, 2015.
- 3) Akita S, Mitsukawa N, Kazama T, et al.: Comparison of lymphoscintigraphy and indocyanine green lymphography for the diagnosis of extremity lymphoedema. *J Plast Reconstr Aesthet Surg*, 66: 792-798, 2013.
- 4) リンパ浮腫療法士認定機構 (編): リンパ浮腫診断治療指針 2013. メディカルトリビューン, 2013.
- 5) International Society of Lymphology: The diagnosis and treatment of peripheral lymphedema: 2013 Consensus Document of the International Society of Lymphology. *Lymphology*, 46: 1-11, 2013.
- 6) 南学正臣 (総編集): 内科学書 (改訂第 9 版) Vol.3. 中山書店, 2019.

- 7) 松原 忍・前川二郎: 慢性リンパ浮腫の診断における RI 検査の役割—SPECT/CT リンパシンチグラフィがもたらした福音と新たな課題—. *日リンパ浮腫治療会誌*, 2 (1): 20-25, 2018.

Profile

松原 忍 (まつばら しのぶ)

東京品川病院 むくみの外来

琉球大学出身。同大学 外科学第二講座 (現: 胸部心臓血管外科学) にて末梢血管外科医としての研鑽を積み、2013 年より横浜市立大学 形成外科学教室で顕微鏡下リンパ管静脈吻合術を学ぶ。2019 年秋より東京品川病院にて同手術を開始。日本外科学会指導医、脈管専門医、リンパ浮腫療法士、リンパ浮腫保険診療医、日本フットケア・足病学会認定師、下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医。